

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年11月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700116
法人名	アール・エイチカンパニー有限会社
事業所名	高齢者グループホームゆうとみい
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本2547-1 (電話) 0994-28-1755
自己評価作成日	令和2年9月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点

- ・大隅地区介護事業所連絡協議会による今後の連絡体制整備及び研修の開催方法についてオンラインを基本にその環境整備を図ることになった
- ・具体的には、初めて[ZOOM]を活用するので取組強化中
- ・緊急時の体制強化(利用者の安全確保に向けて、系列の医療機関との24時間連携体制の強化に努めている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、地域と日頃から親しく交流し、米や野菜の差し入れ等がある。
- ・認知症ケア専門士が数名おり、家族や近隣の相談に乗っている。コロナウイルス感染防止の為に面会は控え、コロナウイルスが終息したら相談活動を開始したい。
- ・運営推進会議では活動状況や身体拘束等の適正化の指針について規約の再確認を行ったり、活動の年間の振り返りも行っている。
- ・職員間のコミュニケーションが良好で離職者はほとんどいない。
代表・管理者は職員の働きやすい環境を整え、前年度は会食や旅行をして職員間の親睦を図り、職員が向上心を持って働けるように努めている。
- ・避難訓練を3ヶ月毎に行い、消防署も年に2回は立ち合っている。停電に備えて発電機の購入や備蓄も3~4日分用意している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は職員全てで共有しのんびり・ゆっくりをテーマに残された力を活かし不安のない日々を支援している。	理念は玄関やホールに大きく掲示し、パンフレット、重要事項説明書にも記載し、毎日朝礼で唱和している。ミーティングやケアの気づきの時に話し合い、常に振り返り、共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の管理者が施設の中に住み地域の自治会に参加している、開設から16年となり火災訓練なども地元の方々と共に訓練に参加し交流を続けている。	自治会に加入し、地域の情報を得て、地域の一員としてふれ合っている。地域住民から、野菜や栗の差し入れ等もある。地域のイベントにホームから、三味線の演奏等を行っている。事業所の火災訓練には地域住民の参加もあり、消防署との連携も取っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症ケア専門士が3人おり入居者家族や近隣の方などの悩み相談に乗っているが今年はコロナの為面会中止により殆ど相談は受けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年は運営推進会議でもコロナについての意見が多く利用者の家族から「もし母がコロナになったらすぐ入院できますよね」との質問がありコロナ患者引き受けの少ない病院によりすぐ返事が出来なくて困った。</p>	<p>2ヶ月毎の偶数月に開催している。コロナウイルス感染防止の為、広い会場で工夫して開催している。活動状況報告・行事報告・AEDの使い方・介護サービスの情報等も報告している。消防訓練を行うこともあり消防設備の点検や地域住民も参加して消火器訓練や車椅子の使い方、避難場所での見守りを確認している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町の介護担当者も何人も変わり連携が密になったころ変わられるので少し辛い部分もあるが最近では昔の担当者が戻ってこられたりしてほっとすることもある、内容も深くなってきた。</p>	<p>町の担当者とは窓口に行き、ホームの実情や相談・報告をしている。災害時における避難場所の協力体制を依頼したり、社会福祉協議会の研修会に参加し、口腔ケアの研修等で支援に活かしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>最近では全ての職員が「身体拘束のないケア」を正しく理解しており玄関を含むすべての施錠をしない。そして身体拘束のない支援のケアに努めている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会があり、母体医療機関と合同で3ヶ月毎に研修をしている。指針の見直しを行い、言葉の拘束についても気が付いた時、職員間で注意し合っている。昼間は玄関の施錠はしていない。外出希望の時は散歩や桜やコスモス見物に出かけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近が高齢者虐待の話をニュースでよく聞くが「なぜ起こるのか」職員達との会話を通じて「ストレスのない介護が虐待のない介護につながるのでは」と皆理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度は研修では理解しているが成年後見制度は今まで利用したことはなく職員が直接学べる機会はないので必要性があれば職員にも活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族の不安などが起きないように契約の時十分な説明を行い疑問点などが残らないようこころがけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に利用者或いは家族の思いが出来る限り反映されるよう職員は管理者とのつなぎを密に行っている。	利用者からは日頃の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは、コロナウイルス感染防止の為、対話は電話が主になっている。「面会は駄目ですか」との質問もあり、ガラス越しの面会にしている。要望はできる範囲内で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者・管理者は職員の意見を反映するために食事会を設けてきたがコロナで出来なかった、今月から密にならぬよう何回にも分けて少人数でやりたいと考えている。</p>	<p>日常の勤務中や2ヶ月毎の食事会の時、2年毎の職員旅行などもあり、相談や意見は常に聞いている。コロナウイルス感染防止の為、配慮した会になっている。代表者や管理者とのコミュニケーションがよく、長期勤務者が多い。出された意見や提案は、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>給与水準はそれぞれ違うが運営者がケアマネで日常現場に入るのでその人に会った勤務状況頑張り度向上心等を考慮しきめている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個人に合った研修に参加してもらっていたが今年は殆どコロナの為に中止が続いている為施設内で出来る事をしてもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>サービスの質の向上の為の取り組みで同業者との交流する機会を設けたいが今年はその中止である、職員は皆勤務期間が長いので過去を思い出して努力してもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期に要望・困り事・不安な事などに耳を傾けながら（家族が半分以上）安心を確保できるよう関係づくりに心掛けている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族は利用者が起こす困りごとについて不安な事等多くの要望があるが少しづつ関係が出来て行けるように職員は困り事減らしに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期対応のサービスについてその時必要としている支援を見極める事は難しいが家族などの困り事等を検討し決めている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は本人を介護しながらも本人の世界をこわさないように昔やれたことの話などを思い出していただき家族のような関係性を築けるように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近の利用者は家族の方が年齢を重ねられた方が多く家族への支援も多くなっている本人への支援と共に一緒に支える支援より施設が家族も共に支へ遠方の家族への連絡も欠かせない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は施設に入っても馴染みの関係が経たれないように他の利用者の面会者に顔見知りの方はついでに声かけて頂けるようお願いしている。	コロナウイルス感染防止の為、ガラス越しに面会している。馴染みの神社へ参拝したり、墓参りなど家族が同行している。手紙の取次ぎ等をして、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者には言葉が出ない方もおいでになるが話は理解できる人もいるので出来る限り話しかけながら意志の疎通が無くならないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者がお亡くなりになりその方とのかかわりはなくなっても今までかかわった家族の方が再度入所されたりで再び支援がスタートしたり退所された家族が遊びに来られることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望はそれぞれで支援できない希望もあったりするが出来るだけ希望に添えるよう職員で検討したり本人本位に添えるよう支援している。	日常の関わりの中で声かけしたり、表情や仕草から思いの把握に努めている。申し送りや担当者会議からも情報把握に努めている。家族からの情報も聞き、本人中心の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活環境或いは馴染みの暮らしを受けていたサービス等出来る限り把握できるよう心掛けているものの家族も遠方にて殆ど情報のない方もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の中で一人一人がそれぞれの過ごし方をしている気持ちの浮き沈みはあるもののその時々体調の把握にこころがけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症は職員全てが同じケア（統一ケア）でないと利用者が混乱するので家族を含めて本人が必要とするケアをそれぞれが話し合い今必要なケアを導き計画を作成できるように心がけている。	本人・家族・職員で話し合い、主治医の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月で、見直しは6ヶ月または必要な時に行っている。状況に変化があった時は、その都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員たちはその日の様子やケアについてそれぞれに記録し情報を共有し気づきを実践に活かせるよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の日々生まれるニーズに対応できるよう柔軟な支援に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源と言えれば施設へのいろいろな方の面会や遊びに来てくれる子供たち本人の過去の趣味に関する関わりなど豊かな暮らしを守るように考えている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は施設長との関係で24時間体制で適切な医療を受けることが出来るので本人もその家族も安心が得られている。</p>	<p>入所時に訪問診療や医療について話し合い、本人・家族の希望するものとなっている。水、土の訪問診療があり、母体医療機関とはオンコールで24時間体制が取れている。定期受診は他科も含め職員が同行し、家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員と看護職員は訪問看護を通じて利用者の適切な受信や看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合ゆっくり治療が出来るよう病院関係者と密に連絡を取り退院に向けて情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重症化した場合や終末期について本人や家族と話し合っているが年を重ねるほど内容が変化していく事業所で出来る事をみんなで共有して職員はチームで支援していく。</p>	<p>「重度化や終末期に向けた指針」を入所時に説明し、同意書をもっている。段階的に家族と話し合っているが、要望の変化もみられる。事業所でできることを十分に伝え、本人や家族の希望に沿うようにチームを組んで支援している。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故や急変については全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を受けている多くの職員は実践で活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災・災害については職員・利用者・地域の方がたとの協力体制は築いている。</p>	<p>火災・水害等の避難訓練は、消防署立ち合いで年に2回実施している。自主避難訓練は3ヶ月毎に行っている。発電機を購入して停電に備えている。地域の協力体制がある。備蓄に米・水・レトルト食品・カップラーメン等を用意し、クーラーボックスも大型を備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者はプライドの高い方が多く人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねることの無いよう対応している。	外部研修に参加し接遇等、新情報を得て対応している。排泄介助・入浴介助に気配りし、同性介助をしている。一人ひとりの個性を把握し、人格や誇り・プライバシーを損ねない、言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の思いや希望を自分で話せるよう働きかける支援も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に合わせるのではなく各個人のペースのその日の体調に合わせてその人らしい時間が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	最近は女性だけではなく利用者の男性もお洒落にされる方も出てきている職員としては支援内容が楽しい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には施設長が参加して普段職員が作らないようなもので作り食事に変化があるように心がけている。	職員の作成した献立を基に、調理専門の職員がいる。食事形態に配慮して、きざみ・おかゆ・ミキサー・とろみ食等、個々に合わせて提供している。行事食・大晦日・正月・七草粥等、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の食べる量・栄養のバランス・水分の量・が1日を通じて確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を保つため口腔ケアには気を付けながら各個人に合わせて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄・排便は気づかれない方も多く時間を決めて誘導しているが夜は睡眠を妨げないようオムツ対応の方もいる。	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間や様子を見て声かけ誘導し、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間はオムツ対応の利用者もいる。リハビリパンツから布パンツに改善できた事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応は牛乳・繊維質の野菜に加え頑固な方は薬対応の方もいる・歩くことも予防の為にトイレは遠い方を進めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は各自の体調に合わせて行っている、拒否をされる方もいるが清潔を保つために出来る限り入浴を進めている。	入浴は時間を決めないで、柔軟に支援している。シャワー浴や足浴も行っている。浴室で歌や個人的な話・昔話も出て、リラックスして楽しんでいる。1対1の介助で個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間はばらばらだが自分の休める場所の確保は出来ている生活習慣を壊さずその時に応じた休みを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は自分が介護している方の薬について理解している、服薬の支援は症状の変化により変わるので充分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活習慣を活かすことはなかなか難しいが今自分の出来る事を手伝っていただいて役割に参加しているという気分転換が出来ればと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>今まで外出支援を心がけていたがコロナでほとんど外出が出来ていない、家族との面会はまだ中止中であるがガラス越しの面会は行っている。</p>	<p>コロナ渦で、今までのような行事や年間計画の外出や家族の協力による墓参りや外出ができていない。徒歩や車椅子で近隣の散歩を行っている。少人数で花見に出かけることもある。家族等の面会はガラス越しに行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金はほとんどの方が所持しておられない所持されると「誰か取った」と騒がれるので「家族に預けている」と本人は思われている、事務所で小銭入れは預かっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が電話に出られると難聴の方が多くなかなか会話が成り立たない文もかけない方が多く職員が書いて自分のサインだけ本人が書いて手紙を出す。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>殆どの方が共有部分で1日を過ごされるいくつかのソファでゆっくりと過ごされる為テーブルに季節の花を置いたりカーテンで光を遮断したりCDを流したりのんびりを心がけている。</p>	<p>共用空間は広く明るい。壁には季節感のある飾りがある。室温・湿度・換気などの空調に配慮し清潔である。入居者はソファで居心地よく、音楽を聞いたり歌を歌ったり楽しんでいる。ウッドデッキでもお茶を飲んだり、会話して居心地よく過ごしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士場所の取り合いが起る壁に「ソファは誰のものでもありません」と書いてみた、今は誰でも座られるようになった。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はそれぞれ自分の部屋だと認識出来ている、自分の馴染みの物を置かれているが時々施設の物を持ち帰り自分の物だとい限られる、本人はいたって真面目である。</p>	<p>エアコン・ベッド・タンスを設置している。家から持ち込んだ棚・寝具・写真・遺影等を飾り、本人の好きなように暮らし、安全に居心地よく過ごせるように設営している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は道線に物を置かないように心がけ安全を考え自分なりに動けるように工夫し今出来る事の維持を支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない